# 知事賞

# 歴史的建造物とアーツアンドクラフツ

第３３回
住まいのリフォームコンクール

## リフォーム前

①庭との繋がりがあまり感じられない茶の間

②出入口ともともとの欄間に矛盾が生じている

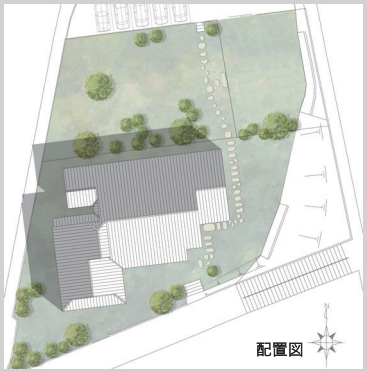
③収納が新建材で付加され通路となった納戸

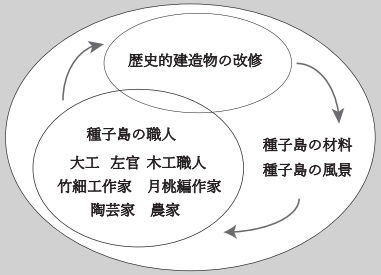
④物置となっている北側縁側

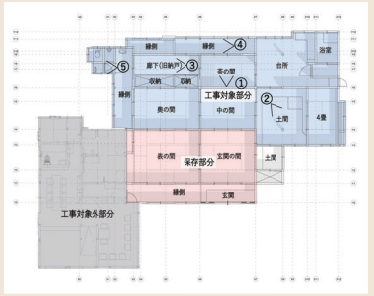
⑤新建材で覆われた増築部分

### PROLOGUE

一人暮らしの女性が守って来た住宅であったが、令和元年に女性が他界されてからは空き家となってしまった為、令和2年から建物をお借りして少しづつ改修工事を行い活用している。改修前の状況は、北側の納戸と縁側は物置となり、閉ざされた空間となっていた。昭和の増築で新建材で付加された北西の水回りはシロアリの被害がひどく、床は抜け落ちそうな状況であった。



改修前平面図

### CONCEPT

島の材料で
島の職人と
島の工芸を散りばめ、
建築の改修を通して
生活文化、伝統、技、
そして島の風景を、
棲み継いでいく

改修工事では、後年の増築や改修で付加されたものを取り除き、もともとの構造を現わし、快適に過ごせる機能を挿入していった。

●敷地のポテンシャルを生かす

町なかにありながら四方を緑に囲まれている敷地のポテンシャルを最大限生かすべく、閉ざされていた北側に向けて開くようつとめた。また西側に建っているマンションからの視線は遮るよう板塀を設け坪庭をつくり緑を取り込んだ。

●元に戻す

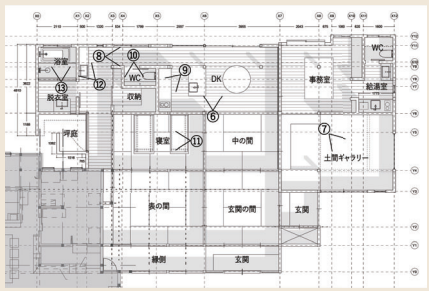
もともと土間であった空間は土間に戻し、茶の間として天井が吹抜ていたところは吹抜に戻し、構造と関係なく挿入されていた部屋や開口部を取り除き、矛盾を解消していった。

●地域で受け継がれて来た工芸を散りばめる

可能な限り種子島の材料で島の職人とつくり、建具やキッチン、家具に至るまで既製品は使用していない。月桃や竹細工を建具やキッチンに挿入し、能野焼を洗面の水栓に施すなど、種子島の工芸を散りばめた。様々な分野で文化を継承してきた方々に空間の改変に関わって貰うことが、歴史的建造物と共に地域の生活文化や工芸、技の継承に繋がることを望んでいる。

●多様に使い、いつでも誰でも

いつでも誰でも訪れることの出来るよう仕組みを整えた。宿や塾、イベントスペースとして多様に活用する傍ら、使用されていない時は、空間そのものを種子島の職人がつくった家具や工芸品を生活舞台に散りばめたギャラリーとして活用し、種子島のこれからの建築や暮らしがもっと地域に根差すきっかけになればと考えている。



改修部分平面図

## リフォーム後

⑥北側の庭を室内に取り込む

⑦土間に戻し地元の工芸品を飾るギャラリーに

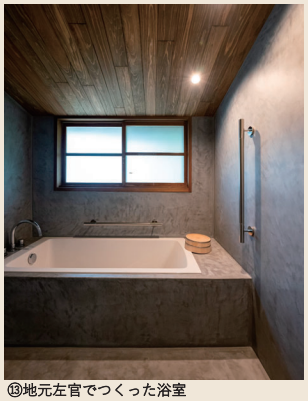
⑧北側からの光が優しく差し込む縁側

⑨せんだんと月桃でつくったキッチン

⑩せんだんと月桃を施したトイレ

⑪近隣からの視線を遮る坪庭を囲む板塀

⑫能野焼を施した洗面水栓


⑬地元左官でつくった浴室

| 応募者 | 設計者 | 施工者 | 築年数 | 構造 | 建方形式 | 竣工 | 工事期間 | 工事費 | 所在地 | リフォーム内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 株式会社 Lamp | DORON 建築設計事務所 | （有）田中建設<br>野平建築（株） | 183 年 | 木造 | 平屋 | 令和５年２月 | 150 日間 | 2,000 万 | 種子島 | 水廻りの改修、さらなる活用に向けた機能の挿入 |